

竹田尚史 質量の泉と重力の霧

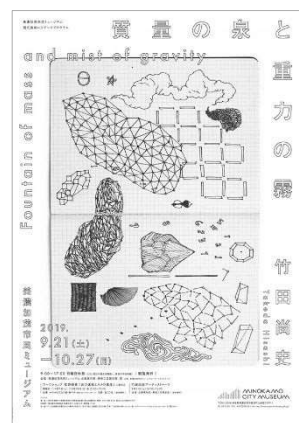
会 期：2019年9月21日（土）～10月27日（日）〈32日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室、森

展示点数：14点

観 覧 料：無料

入場者数：1,162人



【内容】

美濃加茂市民ミュージアムでは「芸術と自然」をテーマに、現代美術家による滞在制作と展覧会を開催してきました。今年度は自然界の質量や重力に着目し、立体作品や写真、インスタレーションなどの多様な表現を展開する竹田尚史（1976年～）を紹介しました。

作家は愛知県を拠点に東海地方のギャラリーや美術館での発表、造形ワークショップなどを各地で開催してきました。当館の森を舞台に作家たちが各々に、新たな表現の実験を行う企画「みのかも annual」に初期から参加しているメンバーの一人でもあります。

物理的な関心を持つ作家はしばしば、はかりや時計といった数字を司る道具を素材として用います。それらの針を意図的にずらす、逆回転させるなどして通常の計測結果と異なる数値を表示させます。あるいは物体を解体したり、別の物質に置き換えたりします。するとモチーフは重力や質量、時間を示す数値から解かれた状態で現実の中に浮遊する不可思議な存在となります。固定概念から放たれるような機知に富む幾つもの試みがひとつの部屋に集合し、現実と背中合わせの仮想の世界が築かれます。

作家はまた、初期の頃から自分自身の身体と同等の質量を空気や水などに置き換える試みを続けています。今回の滞在制作では、ミュージアムを囲む森の中で自分の質量を探しました。そして森の素材を用いて、その質量を変換することを展示室と森の中で展開しました。

私たちにとって質量・重力・時間は、概念として認識していながらも、実感として掴みきれない存在でもあります。竹田尚史はそれらを、自分の身体を通じて目の前に表そうと試みます。作家が創り上げるフィクションとノンフィクションが混在する空間に身を置く時、この世界を自分自身の感性でどう把握して生きていくのか、思いを巡らせるきっかけとなったことと思います。

【関連事業】

■ ワークショップ 空想授業「光の速度とカメの速度」

9月29日（日）13:30～15:00 工芸室テラス・森 講師：竹田尚史氏

参加料：無料 参加者：17人

■ ミュージアム・トーク

9月21日（土）14:00～15:00 企画展示室・美術工芸展示室 講師：竹田尚史氏

参加料：無料 参加者：8人

刊行物

『竹田尚史 質量の泉と重力の霧』記録集 A5判 24頁 200円

【展示品リスト】

No.	作品名	素材	サイズ (cm)
1	世界の端と端に置いた石	石	20×358×68
2	忘れて消えて	時計	28×68×68
3	静かになっていく	空気	280×1700×120
4	質量の泉	水、器	73×68×68
5	無数の星たち	原子模型	73×68×68
6	点と線	銅線	95×10×53
7	私は山になって眠る	計り、板、ミクストメディア	50×320×250
8	消えていくそれぞれの時間	蛍光灯、タイマー	320×1130
9	船を造る	映像、プロジェクター	
10	空気になる	ポリエチレン	180×180×1700
11	いつかここに還ってくる	水、カッティングシート、ホース	
12	Sleeping on the forest	木、灰	
13	われて 雨になって やがて森になる	水、防水シート	
14	空気になる	ポリエチレン	